

古き良き 名車を愛る

WE LOVE VINTAGE CAR !

#010

Volvo 240 SEDAN

ボルボ・240 セダン

今回取り上げるのは、スウェーデンの自動車メーカー・ボルボが1974年から1993年まで生産した乗用車「ボルボ・240」である。今年の2月にJISPA加盟工場となった「三協自動車工業株式会社（三重県松阪市）」が2017年までボルボの正規ディーラーであったと耳にしたので「これはチャンス！」と取材を打診。見事に目論見通り「240」オーナーをご紹介頂くことに成功した。

ボルボ・240は1974年から1993年の19年間に渡って販売され、累計2,862,053台を売り上げた人気車種である。240には、1972年に試作車が公開された実験安全車ボルボ・VESC（Volvo Experimental Safety Car）で試みられた多くの安全対策が実用化されており、前後の衝撃吸収ゾーンの拡大やステアリング機構の変更による操縦性改善など安全性の高さが特徴的だ。

今回取材にご協力頂いた240オーナーの岡本氏と三協自動車工業との繋がりは、当時VWのジェッタに乗っていた岡本氏のもとに、ボルボの正規ディーラーだった同社のチラシが届き、そこに掲載されていたお値打ち価格のS60を見に来店されたのがきっかけで、ジェッタもそうだが元々セダンが好きで、ボルボの安全思想にも好意を持っていた岡本氏は、S60への乗り換えを決めたという。その後、S60の車検や定期点検で三協自動車工業へ訪れるようになった岡本氏は2019年のある日、店先に2台の240（セダンとエstate）が並んでいるのを発見。なんとなしにそのクルマのことを聞いてみると、セダンの方が1989年製の240で、以前に下取りした車両をこれから整備して製品化するものだと判明。当時還暦を迎えた自分の丁度半分の車歴を持つ節目のクルマに運命を感じた岡本氏は、その後も点検や整備と何かとかこつけて240の整備が進んでいく様子を見届け、いよいよ整備が終わりそうな頃に購入の意思を告げたという。

岡本氏に240の魅力を伺うと「クルマらしいスタイル。箱型のセダンなんて今はないじゃないですか。クルマだけでなくノスタルジックな物が好きなんです」と即答された。また岡本氏は国産車と輸入車の違い



角ばったセダンらしいフォルムが人気



Volvo240オーナーの岡本氏



について「良くも悪くも国産車は均質化されているが、VWやボルボなどを経験し、輸入車にはそれぞれメーカーごとに思想があるのが伝わってきます」と表現され、「国産車に乗っている時は気にすることがなかったが、輸入車に乗るようになりクルマの状態に気を遣うようになった」とクルマと対話しながら走る楽しさについてお話し頂いた。

一方で、旧いクルマに乗る苦労もしっかりと体験しており「最初の一年目は大変で、ランプが切れたり、エアコンが効かなくなったり、リアのサスペンションがふわふわで異音がしたりと、頻繁に来店していました。今年で4年目ですがようやく落ち着いてきました。ボルボのエンジンは頑丈なのであと10年は乗りたいです」と笑いながら話してくれた。三協自動車工業の水井社長も「240のエンジンは比較的構造が単純なことから設計上の重大なトラブルは少ないです。トランミッションもアイシン製の耐久性が高いものが採用されています」と240の耐久性の高さに太鼓判を押す。取材の最後に岡本氏は「このお店がなかったら（240

に）乗れなかっただと思う。このお店は社長をはじめメカニックや受付の方まで、私や私のクルマのことを知ってくれていて“かかりつけのお医者さん”的な感じです」と、旧いクルマに乗るうえで信頼できる整備工場の必要性に触れた。

ディーラーの情報力（整備情報・診断機）や技術力を持ちながら、町の整備工場としての親しみやすさを併せ持つ三協自動車工業のような工場は、全国的にも希少な存在と言えるだろう。JISPAでは、このような特色を持つ工場の情報を共有することで、全国各地で困っている輸入車ユーザーのパートナーとなることを目指していきたい。



シンプルな構造で整備がしやすいエンジンルーム



ノスタルジックな雰囲気を保つ車内

〈取材協力:JISPA正会員〉

三協自動車工業株式会社

三重県松阪市田村町378-1

営業時間:9:00-17:00(月曜日は定休日)

TEL:0598-21-7384

三重県松阪市の整備工場。2017年まで30年間、ボルボ社の正規のディーラーとして車両の販売とメンテナンスに取り組み、現在は輸入車専門指定工場として欧州車の新車・中古車の販売と整備に取り組んでいる。

